

武蔵野市立中学校部活動地域展開に係る取組の成果と課題

～令和7年度「未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート(東京都)」の分析等を通じて～

指導課

1 武蔵野市の方向性

学校の垣根を超え、生徒の活動機会確保を図る

地域で、活動を豊かにするとともに教員の負担軽減を図る

(1) 拠点校方式部活動*の設置

【目的】

生徒が、参加してみたいと思ったスポーツや文化・芸術活動に触れる機会を確保する。

*基幹となる部活動が、自分の在籍校にない場合、その部活動が設置されている「拠点校」へ行き、他校の生徒と一緒に活動する取組

(2) 部活動指導員*の拡充

【目的】

持続可能な部活動の運営及び教員の働き方改革を進める

*地域でスポーツや文化・芸術活動に携わる専門的な方々に、指導や顧問を担っていただく取組

2 成果等

(1) 拠点校方式部活動の設置

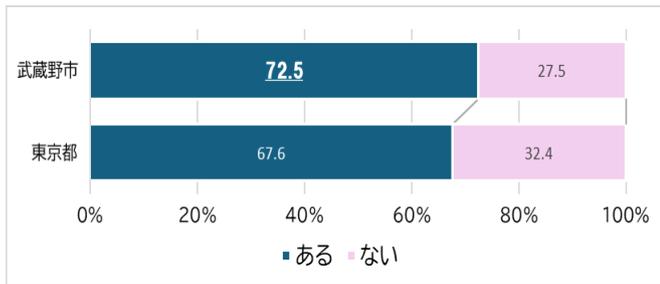
<アンケート項目から>

<分析に用いた調査 概要>

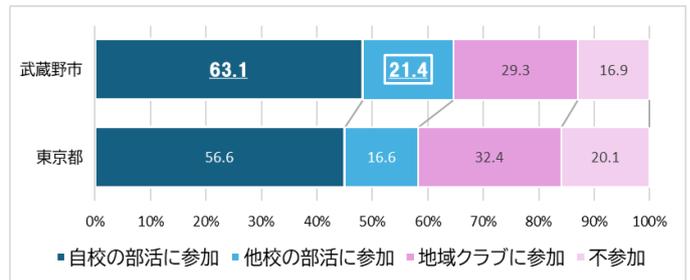
名称：「未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート」（東京都教育庁） 対象校：公立中学校、公立義務教育学校、公立中高一貫教育校 計620校
対象者：中学校第2学年の生徒（市内444名）及びその保護者（市内45名）、対象校の教員（市内29名）

《生徒》

○自分のやりたいスポーツや文化・芸術活動が学校や地域にある

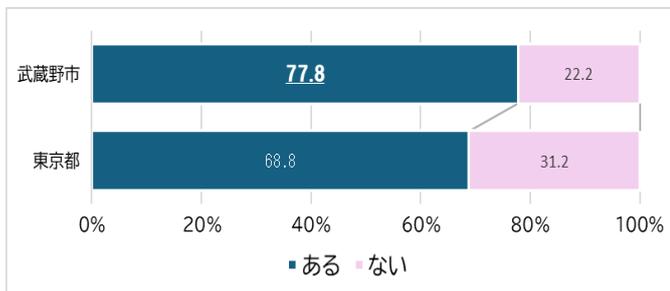


○希望する部活動が学校にない場合、あなたはどうか

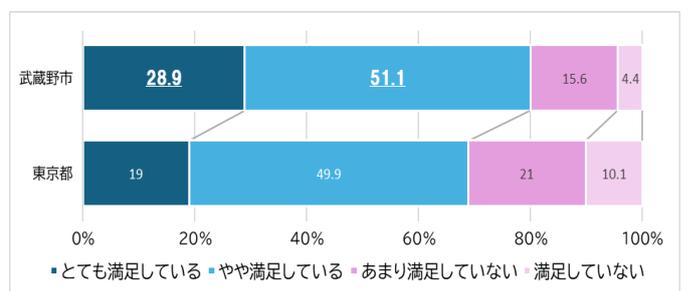


《保護者》

○お子様が興味のあるスポーツや文化・芸術活動が学校や地域にあるか



○学校や地域のスポーツや文化・芸術に関わる環境に満足しているか



成果

○拠点校方式部活動という選択肢が増え、生徒のスポーツや文化・芸術活動に触れる機会を確保することができた。

○市立中学校教員と検討しながら、拠点校方式部活動を設置したことにより、一定、生徒のニーズに応じることができている。

